第　40　号

県中教研
技家(家庭)部会だより

発 行 日　令和7年3月
発 行 所　富山市千歳町1－5－1
富山県中学校教育研究会
編集責任者　吉田みづき
題　　字　金山　泰仁　先生

「課題設定」における課題

指導主事　矢野　優子

技術・家庭科部会の研究主題には副題として「生活や社会にいかすための問題解決的な学習の充実」とあります。問題解決的な学習とするために、生徒が解決する必要感のある課題を、生徒自身が設定します。この「課題設定」について難しいという話題を協議会でよく耳にします。例えば住生活の学習で、生徒が「自分の部屋を片付けても、すぐに散らかってしまう。片付けた状態を維持できる収納の工夫について取り組みたい」「玄関で転んでけがをした。安全な家にしたい」と課題を設定したとします。どちらも解決の必要感のある課題を設定しているのですが、「快適な住まい方」と「安全な住まい方」のように、課題が多岐に渡ると、教師は一人一人の課題に応じた支援が必要となり、一人で指導することが困難になります。

このような状況にならないために、題材のゴールを明確にします。住生活について、学習指導要領の指導事項B(6)イには「家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること」とあります。生徒が取り組む課題は「安全な住まい方について」となります。授業においても生徒が「安全な住まい方」について考えられるよう手立てを講じることで、「快適な生活のために片付ける」ではなく「安全な生活のために片付ける」と、生徒の視点が明確になり、課題が多岐に渡るということについて解消できると考えます。

とはいえ、実際に授業を行えば、ねらいとする「課題」を生徒が設定できるようにするためにどのような手立てが効果的か、「課題設定」の時間における新たな課題がみえてきます。中教研等で集まる機会を活用し、各学校での具体的な取組の中から、うまくいったこと、いかなかったことを情報交換し、解決の糸口を探っていただきたいと思います。

（西部教育事務所）

生徒の姿から学ぶ研究大会

部長　吉田みづき

今年度の研究大会では、指導事項B(6)「住居の機能と安全な住まい方」を扱った題材の授業が公開され、モデル家族の住まいをどのようにしたら十分に地震に備えたものにできるかを考えさせるものでした。そこでの生徒の意見はどれも具体的で実現性の高いものが多く、互いに自信をもって考えを伝え合っていました。この学習を通して解決する課題をそれぞれの生徒が設定できたことが、この主体的な姿に現れていることを実感するとともに、私は日々の授業実践について二つの大切なことを改めて考えさせられました。

一つ目は生徒の実態に合わせた題材の設定です。昨年１月の能登半島地震を経験した生徒だからこそ、我が家の自然災害への備えについて問題意識をもって見つめることができたはずです。

二つ目は、見通しをもって課題を解決することです。我が家の防災ハンドブックの作成という、学習した内容を実際の生活で生かす場が設定されたことによって、一つ一つの学習過程に生徒自身が目的を見失わずに臨むことができたのでしょう。

このようなことも、研究大会での授業があったからこそ感じられたことです。我々の教科は、最も生活に密着したものでありながら、日々の実践の中では自分の取組の相対化や指導効果の実感がしづらいものです。それ故に、他の授業者の実践やその中での生徒の姿を見ることができる研究大会は、本当に特別な機会です。部会員数が少ないからこそ、直面する疑問や悩みを打ち明けやすく、ニーズに合った研修が実施できるというメリットもあります。生徒のいきてはたらく力の育成につながる問題解決的な学習の充実を目指して、提案し合う機会を大切にし、一層力を合わせていきたいと思います。

（富・和合中）

第68回　研究大会報告

東　部　地　区　　10月９日(滑･早月中)

滑川市立早月中学校において、新川地区からの「消費生活・環境」を扱った題材の全体計画・学習指導案の発表と、富山県警察本部人身安全・少年課の窪野ひとみ氏による消費生活に関する講演会を実施した。

講演会では「中学生が陥りやすい消費者トラブルの実態」と題して、近年、発生件数が多いSNSを介した犯罪等のトラブルや児童ポルノ等の性被害の現状についてお話しいただいた。その後、講演の内容を基に家庭科の授業にどのように取り入れることができるかグループに分かれて協議した。講演の中で、消費者トラブルを扱った動画を紹介いただいた。悪質商法を扱う学習で、生徒が問題意識を高め一人一人が課題を設定する際に、今回視聴した動画等が大変有効であることを実感することができた。また、今回の講演内容には、技術科のネットモラルを扱った授業で活用するとより効果があると思われるものもあった。技術と家庭それぞれの分野の目指す資質・能力の育成を意識して、授業の中で生徒が目にしたり耳にしたりするものを厳選する必要性を改めて感じた。

発表では、新川地区の研究メンバーから、「消費生活・環境」を扱った題材について、指導と評価の計画と学習指導案が提案された。部会員がグループに分かれ、課題となっている点について、その解明に向けて協議を行った。大変有意義な意見交換をすることができた。

谷口久代指導主事(東部教育事務所)からは、「実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れるとともに、題材で育成する資質・能力を明確にして、指導と評価の計画を作成することが大切である」と助言をいただいた。

日頃の取組や授業実践を改めて見直すよい機会となった。

中田　もも（中・雄山中）

西　部　地　区　　10月10日(高･芳野中)

高岡市立芳野中学校で、狩野沙也佳教諭による研究授業「地震に備えた安全な住空間の整え方を考えよう」が行われた。生徒は、前時に学習した住まいの地震への備えのポイントや、事前に調べた自分の家の地震対策を踏まえて、モデル家族の住まいを教材にして地震への備えを考える学習活動に取り組んだ。活動では、学習専用端末でモデル家族の住まいの中を見回すことができるWebアプリを活用した。各々が担当する空間の地震への備えを考え、プレゼンテーションシートかワークシートを選んで記入した。グループ内でまとめた後、全体で意見を共有し、考えを深めた。活動中に、他の生徒の参考になる考えをもった生徒には、教師が「お助けマンカード」を渡し、生徒同士が気軽に聞き合えるようにした。また、個で考える段階で、他の生徒との意見交換、書籍、インターネット検索等、複数の方法から自分に合う方法を選択して活動させたことは、主体性の向上につながった。終末には、自分の家庭の課題を想起して、実践したい備えを考え、活動の中で得た知識を生活につなげた。

矢野優子指導主事(西部教育事務所)からは、「学習形態を選択制にすることやお助けマンカードの活用等は、活動を継続し、慣れることで生徒にとってより有効になってくる。題材を構想する際は、学習指導要領で育成を目指す資質・能力を確認することが大切である」と助言をいただいた。

部会協議では、氷見市社会福祉協議会の開上滉己氏から、能登半島地震における被害の現状や震災後に行われている活動、今後望まれる災害への対策等をお話しいただいた。家庭科の授業でどのように取り入れていくかをイメージしながら講義を聴くことができた。

平　　和章（射・小杉中）